

I. 2020年度の活動報告と今後の方針

委員長 妻屋 彰

2020年のはじめから続くコロナ禍は、人々の交流や活動が制限されるなど生活に深刻な影響を及ぼしています。報道ではサービス産業への影響の大きさがしばしば取り上げられていますが、製造業を中心とした企業活動においても、物流に問題が生じる、否応なくリモートワークをはじめとするオンラインでの業務・ビジネスが導入される、などの影響や変化が生じています。世界的な感染症は、発生期間が長いこと、対象範囲（地域）が広くかつ時間とともに変化していくこと、交流により広がるため対策として人（やモノ）の流れが阻害されること、などの点で地震や火災、水害などの自然災害とはかなり性質が異なり、想定する災害として地震を中心に据えて事業継続計画を策定してきた多くの企業にとっては試行錯誤で対応する1年だったと思います。

本専門委員会においてもこのような事態は全くの想定外でした。オンラインでの講演会等を企画・運営するノウハウが全くない状態からのスタートとなったことや、夏を越えればある程度収束し対面で実施できるだろうという甘い見通しを立てていたこともあって、2020年度は例年に比べると専門委員会としての活動は低調となりました。委員長としてお詫び申し上げます。そんな状況ではございましたが、中止となった2020年度精密学会春季大会で5軸工作機械の空間精度補正技術調査研究小委員会が企画していたシンポジウム「工作機械の空間誤差の補正に関する最新技術」で予定していた講演を中心に、同小委員会企画のオンライン講演会を4回（2020年6月、8月、10月、12月）開催し、いずれも40名前後の参加者を集める盛況でした。また、2021年1月に開催したシステム制御情報学会SmFA研究分科会との共催研究会では、コロナ禍によってオンライン/デジタル化が進んだことを受けて、「デジタルエンジニアリングに関する最新動向」と題して3名の講師による講演会を開催し、約60名の方に参加いただきました。

現在のところ、依然として新型コロナウイルス感染症が猛威を奮っていますが、ワクチン接種や集団免疫の獲得などで、1~2年の内には終息に向かうものと思われます。ポストコロナを考えたとき、元に戻るもの、戻らないものそれぞれあるでしょうが、オンライン化やデジタル化の流れはいい意味で加速していくものと思います。また、人々の生活においては、ライフスタイルが見つめ直されて変化していくだろうと推察します。このようなことを考えつつ、今年度はオンライン講演会等を企画して行く予定です。

最後になりましたが2021年度につきましても、なお一層のご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。